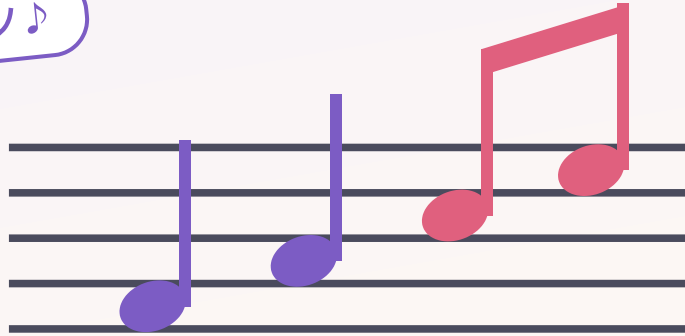


ドミソ♪



メロディをつくらう！

メロディをつくる

音の高さをつなげて、自分の歌をつくらう



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょう。

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まります。

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

メロディの基本	3～10
つくり方を広げる	11～16
作品にする	17～19
練習しよう	20～24
ふり返り	25～30

メロディってなに？

音の高さがつながって、メロディが生まれます。

メロディをつくるとは、**音の高さをつなげて**、ひとつの流れをつくることです。
むずかしく考えず、**口ずさんだ鼻歌も、りっぱなメロディづくりの第一歩**です。



かんたんなメロディの例



ド・ミ・ソのように音を選んで並べるだけで、メロディの形になります。

ポイント

- メロディは、音の高さの「上がる・下がる・同じ」の組み合わせでできています。
- 楽器がなくても、声だけでメロディはつくれます。

やってみよう

1. 好きな高さの音を3つ、声に出して歌ってみよう。

ワンポイント うまく音程が取れなくても大丈夫。自分の中の「これがいい」という感覚を大切にしましょう。

書いて覚えよう

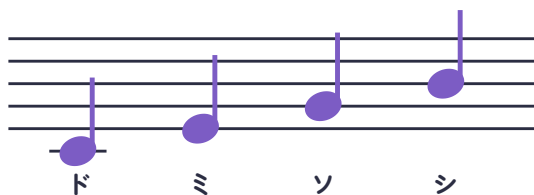
- 歌しやすいメロディは、音の高さの動きが大きすぎないことが多いです。
- くり返しの部分があると、聴き手が覚えやすくなります。
- 自分が口ずさんでいて心地よいと感じるかどうかも、大切な目安です。

1. 好きな曲を1つ思い浮かべ、覚えやすいと感じる理由を書こう。

音の上がり下がり

音が上がる・下がるだけで、印象が変わります。

上がるメロディ・下がるメロディ



音がだんだん上がっていくと、気持ちが盛り上がるような印象になります。

ポイント

- 音が上がっていくと、明るく前向きな印象になりやすいです。
- 音が下がっていくと、落ち着いた・さびしい印象になりやすいです。

やってみよう

1. 上がるメロディと下がるメロディを、声でそれぞれ歌ってみよう。
2. どちらがどんな気持ちに感じましたか。

書いて覚えよう

くり返しと変化のバランスが、メロディを面白くします。

motif

メロディのもとになる、短い音のかたまり

variation

同じ形の一部を変えること

- 短いモチーフをくり返すと、メロディに統一感が生まれます。
- 1か所だけ変化させると、そこに耳が引きつけられます。

1. ド・レ・ミの3音をくり返し、最後だけファに変えて歌ってみよう。



Emma



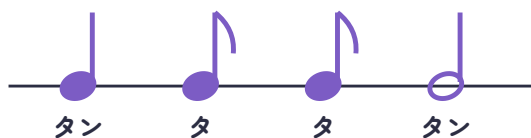
7

短い一歩や、身近な言葉から始めてみましょう。

リズムから先に決める

リズムを先に決めてから、音の高さをつける方法もあります。

リズムだけ先につくる



まずリズムだけを決めておき、あとから音の高さをのせる作り方です。

ポイント

- リズムを先に決めると、メロディに動きやまとまりが生まれやすくなります。
- つくり方の順番に正解はなく、自分に合う方法でかまいません。

やってみよう

1. 上のリズムに、好きな音の高さをつけて歌ってみよう。

書いて覚えよう

ドレミの音階を使うと、メロディが作りやすくなります。

scale

音の高さを順番に並べたもの

do re mi fa sol la ti do

もっとも基本的な音階

- ドレミファソラシドの中から音を選ぶだけで、まとまりのあるメロディになります。
- すべての音を使わなくても、3～5音だけでも十分メロディをつくれます。

1. ドレミファソの中から好きな音を4つ選び、順番を決めて歌ってみよう。

5つの音だけでも、きれいなメロディが作れます。

pentatonic scale

5つの音でできた音階。ド・レ・ミ・ソ・ラなど

ド・レ・ミ・ソ・ラの5音は、日本の民謡やわらべうたにもよく使われます。

1. ド・レ・ミ・ソ・ラの5音だけを使って、短いメロディをつくろう。

いちばん高い音や強い部分が、曲の山場になります。

- メロディの中でいちばん高い音の部分は、曲の山場（クライマックス）になりやすいです。
- 山場は曲全体の真ん中から後半にあると、盛り上がりが伝わりやすくなります。
- 山場が1か所に絞られていると、印象に残りやすくなります。

1. 自分のメロディの中で、いちばん盛り上げたい部分はどこですか。

終わり方

終わりの音を工夫すると、メロディがまとまります。

落ち着いた終わり方



最後にド（主音）へもどると、聴き手は「終わった」と感じやすくなります。

ポイント

- 最初に使った音（主音）に戻って終わると、まとまりのある印象になります。
- あえて終わらせず、続きがありそうな終わり方にする工夫もあります。

やってみよう

1. 自分のメロディを、ドの音で終わるように歌ってみよう。

書いて覚えよう

無理のない音の範囲で、メロディをつくりましょう。

ド ミ フ ソ

15

- 思いついたメロディは、忘れないうちに録音しておくで安心です。
- 録音に加えて、気持ちやきっかけもメモしておくで、あとで思い出しやすくなります。
- スマートフォンの録音機能などを、大人と一緒に使うとよいでしょう。

1. 思いついたメロディを、鼻歌で家族に聴かせてみよう。

メロディを直す

直すことで、メロディはよりよくなります。

直す前

よくあること

音の動きが多すぎる

歌いにくく感じる

終わり方があいまい

落ち着かない

直したあと

こうしてみよう

動きを整理する

無駄な音を減らす

主音で終わる

まとまりが出る

ポイント

- 1度で完成させようとせず、少しずつ直していきましょう。
- 声に出して何度も歌ってみると、直したいところが見つかります。

やってみよう

1. 自分のメロディで、直したいところを1つ見つけて書こう。 _____

書いて覚えよう

人に聴いてもらい、発表してみましょう。



Emma



18

メロディ帳をつくる

つくったメロディを、記録に残しましょう。

作品名

使った音

工夫したところ

聴いてほしい人

Ken の例

作品名 朝の3音／使った音 ド・ミ・ソ／工夫したところ 最後にドへ戻して落ち着かせた／聴いてほしい人 家族

ポイント

- 続けて書きためると、自分のメロディづくりの成長がよくわかります。

書いて覚えよう

実際にやってみよう・ペアやグループで練習しよう

問いと答えのメロディを、2人で練習しよう。

A (歌って) ド・ミ・ソ (問いかけ)

B (こたえて) ソ・ミ・ド (答え)

A (新しい問いかけ)

B (こたえて)

ポイント

- A が問いかけるメロディを歌い、B が答えるメロディを返す練習です。
- 慣れたら、B が自分でアレンジして答えてみましょう。

ワンポイント うまく音が合わなくても大丈夫。声を出して楽しむことがいちばん大切です。

書いて覚えよう

よくあるつまずき・上達のコツ

つまずきは、上達のサインです。

つまずき

よくあること

音の高さが不安定

同じ高さで歌えない

終わり方が決まらない

中途半端に感じる

長さがバラバラになる

リズムが崩れる

コツ

こうしてみよう

ピアノの音を聴いて合わせる

耳で確かめる

主音で終わらせてみる

落ち着く終わり方に

手拍子で拍をとる

リズムを安定させる

ポイント

- できないところは、ゆっくり・短く区切って練習しましょう。

やってみよう

1. あなたがメロディづくりでつまずきやすいことは？ _____

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

メロディの基本

☐ 音階

音の高さを順に並べたもの

☐ モチーフ

メロディのもとになる短い音

メロディの形

☐ 問いと答え

前半と後半で対になる形

☐ 山場

曲の中でいちばん盛り上がる部分

つくり方

☐ 5音音階

5つの音でできた音階

☐ 終わり方

曲を落ち着かせる音の選び方

作品にする

☐ メロディ帳

つくったメロディを記録するノート

☐ 録音

メロディを音で記録すること

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。言葉を知ると、メロディの工夫も説明しやすくなります。

書いて覚えよう

復習クイズ

ここまでの内容をチェックしよう。

1. 言葉と意味を線でむすぼう

- | | | |
|-------|---|----------------------|
| 音階 | ● | ● ア. つくった作品を記録するノート |
| モチーフ | ● | ● イ. 5つの音でできた音階 |
| 山場 | ● | ● ウ. メロディのもとになる短い音 |
| 5音音階 | ● | ● エ. 音の高さを順に並べたもの |
| メロディ帳 | ● | ● オ. 曲の中でいちばん盛り上がる部分 |

2. 空らんに入る言葉を書こう

- 音の高さを順番に並べたものを [] という。 _____
- 曲の中でいちばん盛り上がる部分を [] という。 _____

3. 正しいほうに○をつけよう

- 最後に戻ると落ち着く音 → (主音 / 裏拍)
- 5つの音でできた音階 → (5音音階 / シンコペーション)

書いて覚えよう

鼻歌で短いメロディをつくる

聞こえた音をまねして歌う

声がよく響く場所で歌ってみる

問いと答えの歌遊び

メロディ帳に1行書く

家族にメロディを発表する

- 1回5分でも、毎日続けることがいちばんの力になります。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

発表してみよう・感想を書こう

つくったメロディを、人に伝えてみよう。

曲名

使った音階

いちばんの山場

聴いてほしい人

Emma の例

曲名 タやけメロディ／使った音階 5音音階／いちばんの山場 中間の高いうの音／聴いてほしい人 家族

感想を3文で書こう

① このメロディは、～な感じがしました。② とくに、～のところが好きです。③ それは、～だからです。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

メロディの世界は、ここからどんどん広がります。

もっと知りたい人へ

動画で

作曲のようすを見る

アプリで

いろいろな音階を試す

図書館で

作曲やメロディの本を探す

次のステップ

リズムをつくる

メロディに動きを加える

和音をつける

メロディに響きをつける

歌詞をつける

言葉でメロディを彩る

ポイント

- この教材の次は「リズムをつくる」。メロディに動きを加える学びが待っています。

書いて覚えよう

好きな曲のいちばん高い音を探す

3つの音で**短いメロディ**を1つつくる

つくったメロディを**家族に発表する**

L26 音階→エ モチーフ→ウ 山場→オ 5音音階→イ メロディ帳→
ア 2. 音階 / 山場 3. 主音 / 5音音階

L33 (例) メロディは、音の高さをつなげてつくるもの。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。